

### 3 ボランティア活動・教育

#### 進捗状況報告

2006年度以降、各学部における新入生オリエンテーションにヒューマンサービスセンターによるプログラムを組み込み、広くボランティア活動に対する啓発を強化した。その結果、学内の様々なボランティア活動への参加学生数の増加が見られる。

#### 学内第三者評価結果を受けての追加記述

阪神淡路大震災によって1995年がボランティア元年と言われるようになったことは記憶に残ることであるが、関西学院はその創立期から社会奉仕活動への関心は高く、社会貢献の歩みは今日まで脈々と、キャンパスの各所で継承されている。近年は国連ボランティア計画（UNV）と連携し、UNITeS（国連情報技術サービス）ボランティアへの派遣が進んでいる。

ただし、そうした活動全体の概況を大学あるいは学院として把握するという取り組みは少なく、『年次報告』中に、宗教センター活動報告においてヒューマンサービスセンターの活動が、また学生部関連のなかで随時課外活動としての学生の活動が紹介されているにとどまる。つまりこれまで学生ボランティアによる社会貢献、社会奉仕をその善意と社会意識に依存する傾向が強く、大学固有の教育的責任としてとらえてこなかったことは指摘されるであろう。2005年度の（具体的改善の方策）に記した「ボランティア活動の実態を把握するため、基礎データの収集を継続的に行う」ことは進んでおらず、早急に取り組みたい。

同様に（改善の具体的方策）で記した「多様に展開されているボランティア諸活動の連携と協力システムの構築」については、大学が自らの教育的責任においてそれを評価し、支援し、発展させるための支援のあり方について、学長室を中心にサービス・ラーニングという視点を含めた構想が提案されており、具体化を進めていく。

#### 学内第三者評価

2005年度の自己点検・評価において（点検・評価の結果）で「本学のボランティア活動の実態を把握するための基礎データの不足が致命的である」とし、（改善の具体的方策）で「基礎データの収集を継続的に行う」「多様に展開されているボランティア諸活動の連携と協力システムの構築」を挙げているがこのあたりは2年を経てどのように進捗しているか。

進捗状況報告には、各学部の新入生へのオリエンテーションの中にヒューマン・サービス・センターのプログラムが2006年度から組み込まれた、とあり、ボランティア活動・教育において非常に大きな一歩だと評価できるが、「ボランティア活動への参加学生数の増加」は何らかのデータに基づいたものか。

また、2004年度から国連ボランティア計画（UNV）のUNITeSボランティアの派遣が始まっていることについても記述を加えるのが望ましい。